

研究主題

子どもと算数を創る
— 「子どもが自ら算数学習を進める姿」に着目した授業づくり —

1 研究主題について

さぬき・東かがわ支部では、県の研究主題を受け、「子どもと算数を創る」を研究主題とし、算数の授業づくりについて長く研究を進めてきている。副主題については、昨年度より「子どもが自ら算数学習を進める姿」に着目した授業づくりに取り組んでいる。この研究テーマは、教師主導型の授業から、子どもが主語となる授業づくりをより一層進めていくことができ、香小研及びさ・東支部の研究主題につながると考えている。「子どもが自ら算数学習を進める姿」に着目した授業づくりの研究を進めるにあたって、3つの授業づくりの工夫について実践を通して検証している。

授業づくりの工夫 ①：子どもの問いを明確にし、つながる方法を工夫する。

②：子どもが数学的活動の楽しさを実感できるような授業づくりを工夫する。

③：「指導の個別化」に関する支援方法を工夫する。

2 研究実践

(1) 第1回研修会 6月20日 会場：さぬき市立志度小学校

① 研究テーマ、研究内容についての提案 提案者 さぬき市立長尾小学校 教諭 玉木 祐治

② 新しい算数の教科書作成のポイント、領域の系統性や使用方法等についての講話、教科書の内容等に関する質疑応答 講師 啓林館教科書編集担当者

(2) 第2回研修会 11月21日 会場：さぬき市立さぬき南小学校

① 研究授業 4年「変わり方」

授業者 さぬき市立さぬき南小学校 教諭 森山 優希

② 研究協議

○ 導入において、周りの長さを赤い棒を置いて確認することで、視覚的に捉えることができた。

○ グループで「まなボード」に考えをかくという目的で交流したことで、縦の見方、横の見方に関する考えが深められた。友達との考えとのずれに気付いた児童も見られた。

○ 10段、100段だったら周りの長さがどうなるかを考えることで、式で考えるよさに気付くことができていた。

○ 「〇〇ヒーロー」というように、考えやアイデアにネーミングがされていて、子どもたちが主体となった学びの積み上げが感じられ、本時においても子どもどうしの考えの共有に生かされていた。

● グループで話すこととまなボードにかくことが同時に行われたことにより、十分に交流できていない班も見られた。「話す」「かく」を時間で区切るなど、活動のバランスを図る手立ても必要であった。

● 「まなボード」の考えが、黒板に10枚以上並んだため、整理が必要であった。考えの分類や焦点化にもう少し手立てが必要であった。



3 成果と課題

タブレットの活用が日常的になり、算数授業において「まなボード」を活用したような交流は減ってきている。しかし、同じボードに考えをかくという目的により、友達との交流が生まれ、数学的活動の楽しさを実感できる手立てとなっていた。今後も、数学的活動の楽しさが実感できるような授業づくりの工夫について、さらに研究を深めていきたい。